弾道ミサイル攻撃を受けたとき 明暗を分けるのは避難行動

弾道ミサイルが着弾した場合、激しい爆風や破片などにより、身体へ大きな被害を受ける可能性があります。
爆風や破片などから身を守るため、状況に応じた避難行動をとることが大切です！

※イメージ

屋外にいる場合

爆風や破片などを避ける

近くの建物の中
（できれば頑丈な建物）
または 地下へ

もしも、近くに建物がない場合は

物陰に身を隠す
または
地面に伏せ頭部を守る

屋内にいる場合

爆風で割れた窓ガラスなどを避ける

窓から離れる
または
窓がない部屋へ

よくあるご意見と回答

Q1 Jアラートが流れた後に避難を始めても手遅れでしょう？

A. 避難行動にかけられる時間は限られたものですが、それでも、近くの建物の中や地下へ避難する、物陰に身を隠すなど、わずかな時間でもできることはあります。

Q2 近所には、丈夫な建物も地下もなく、避難できるところがありません

A. 横（水平）方向に広がる爆風や飛散する破片等に対して身体の衝突面を極力減らすことが重要なので、木造住宅へ避難するだけでも、避難行動をとらない場合と比べて被害を軽減できる可能性が高まります。

Q3 地面に伏せる、頭部を守る……。それで、ミサイル攻撃から身を守れるとは思えません

A. 横（水平）方向に広がる爆風や飛散する破片等に対して身体の衝突面を極力減らすことが重要なので、避難行動をとらない場合と比べれば被害を軽減できる可能性を高めることができます。

Q4 避難したところで、弾道ミサイルが直撃したら何をやっても無意味では？

A. 弾道ミサイルによる被害の程度は、その威力などによりさまざまであり一概には言えませんが、地下への避難などの適切な避難行動をとることで、避難行動をとらない場合と比べて被害を軽減できる可能性を高めることができます。

詳しくは、内閣官房国民保護ポータルサイトへ　国民保護　検索

2018.4 作成

内閣官房